

「非行領域における家族合同ミーティングの実践と効果検証」

大原 天青

国立武蔵野学院

1. まえがき

非行からの立ち直りには個人の要因のみではなく、家族、友人関係、学校をはじめとした社会との繋がりに介入していくことが必須である。中でも家族への働きかけは介入の重要な焦点であるされ(村松, 2000), 保護観察処遇(生島, 1985), 少年院における家族支援(牧山, 2012), 児童自立支援施設等(矢野, 2014)における取り組みが紹介され、家族療法の技法を非行少年の支援に活かす取り組みが示されてきた。

非行領域における家族療法は在宅ケースと入所ケースによって対応が異なる。在宅ケースでは家族との現実的な生活が進行しながら進められるが、入所ケースの場合は「家族再統合」という目的が加わることになる。これまで入所型の施設では、子どもの入所理由に関する問題性を内省させる働きかけや基本となる安定した生活を維持することに重点が置かれ、子ども自身の心理・行動面の改善を通して退所の判断がなされることが多かった(全国児童自立支援施設協議会, 1999)。しかし、関係性の問題を背景としている多くの非行事例において、最も身近な家族との関係を改善していく重要性が改めて指摘されてきた(児童自立支援施設運営ハンドブック編集委員会, 2014)。こうした点から施設内におけるインケアのみではなく、家庭や社会へ再統合していく過程を連続線上につないでいく働きかけが重要であると考えられる。

しかしながら、非行領域のなかでも特に入所型の施設において、非行少年と家族の関係性の修復と家族再統合の両方の目的を含む方法については十分に明らかにされていない。そこで本研究では、児童自立支援施設における家族療法（以下、家族合同ミーティング）の取り組みについて、実践的なマニュアルの作成や映像化、実践事例から効果について検証を行う。

2. 目的

本助成研究においては、児童自立支援施設における家族合同ミーティングの実践マニュアルの作成や映像化、事例の分析、諸外国のプログラムに関する文献研究など複数の研究に取り組むことができた。本報告では家族合同ミーティングに関する実践上のポイントや取り組みの具体的方法について紹介し、現場で実践するために仮想事例を基に映像の作成に取り組んだ。そこで本報告では、家族合同ミーティングの実践上のポイントをまとめ、家族合同ミーティングの具体的な対話事例（仮想事例）を基に紹介することを目的とする。

3. 方法

入所型施設における家族合同ミーティングの取り組みは、施設や対象者の特徴、家族の抱える課題など、

様々な実践上の制約があり、それらに対応しながらこれまでの研究の知見を実践に適応し、実践での改善を図りながら進めてきた。本報告における実践的な取り組みに関するポイントについても、こうした実践と研究成果の循環の中から整理をしたものである。

4. 結果と考察

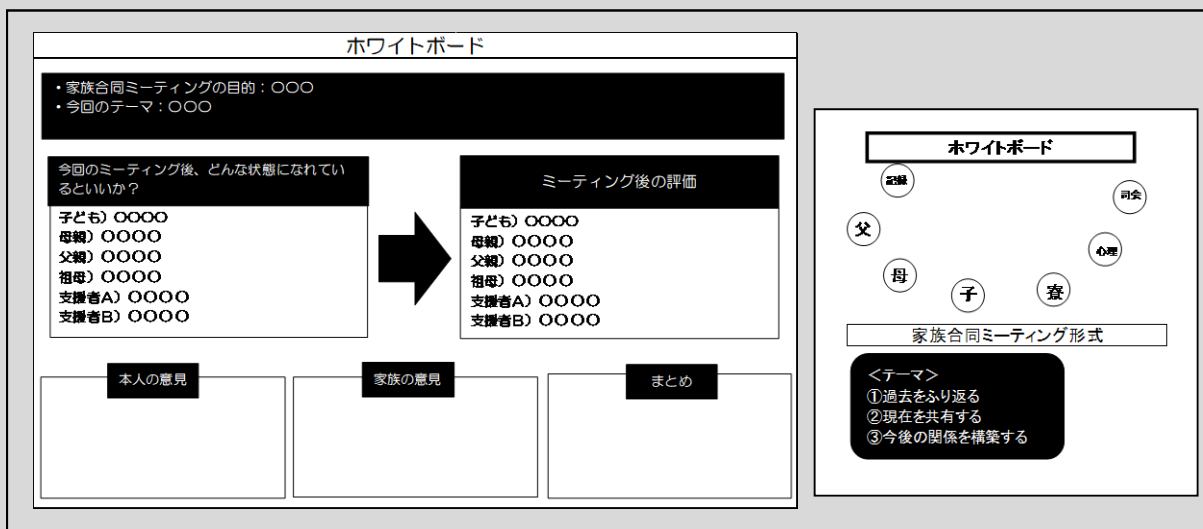
4-1. 家族合同ミーティングとは

まず家族合同ミーティングの実践上の特徴や具体的取組み方法について以下にまとめる。

非行領域における家族合同ミーティング：＜解説編＞

1. FGMJ の説明

非行領域における家族合同ミーティング（Family Group Meeting in Juvenile delinquency：FGMJ）とは、子どもと家族及び関係者が集い、これまでの出来事を振り返り共有し、現状を理解し、今後の生活に向けた準備をするための目的を持った対話の会である。このミーティングでは、ホワイトボードを活用し、家族のストレングスを引き出し、当事者が主体的に問題を解決していく力となることを促していく。子どもの問題行動の原因としての家族ではなく、解決手段としての家族の力を活用するための一つの具体的な方法を示している。



2. 目的

FGMJ の目的は、過去をふり返ること、今を共有すること、これから先の出来事への対応を準備することを通して、子どもと家族の関係を修復し新たな関係の構築を目指すことである。

行動上の問題を理由に入所してきた子どもたちにとって、主訴となる問題がこれまでの人生の過程の中でどのように引き起こされてきたのかをふり返ることは重要なテーマである。非行化した多くの子どもの中には、両親の離婚や収監、被虐待等の逆境的体験が複数あることが多い。こうした子どもの被害と加害の時間的な経過を家族とともに振り返ることは、過去の関係性の修復と未来への展望を

描くことにつながる。

次に「今を共有する」という点は、親元から離れて生活する中で成長してきた点や現在の課題を整理していくことで、今後につなげる目的がある。保護者にとっては、関わりが困難な状態で施設入所にいたった子どもが、成長していることが感じられることは大きな喜びになる。一方で現在の課題を共有することも保護者としての自覚を促す意味で重要になる。

最後に、今後起こりうる出来事への準備も重要な目的である。児童自立支援施設に入所している場合、逸脱できない外的な環境が整えられているが、退所後は必ずしもそのような環境が保障されているわけではない。そのため、どのようなことが起こりやすいのか、どのような準備が必要なのかを整理していく。このように FGMJ は、過去・現在・未来を子どもと家族で共有していくことで関係の再構築を行う。

3. 対象と参加者

FGMJ の対象は、何らかの子どもの行動上の問題と家族関係の葛藤や関係性の課題を抱えた小学校高学年以上の子どもとその家族になる。FGMJ では、子どもとその両親、兄弟、祖父母などの拡大家族を含む形で実施される。参加者には FGMJ の全体をマネジメントする役割としての司会者、ホワイトボードへのメモをとる記録係、子どもの直接支援担当者、心理担当者、精神科医などが挙げられる。

4. 時間の設定・回数・期間

FGMJ は、通常一回につき一時間～一時間半程度で設定される。目標設定をふまえて、各回で焦点を当てるテーマを絞り込み、限定的な回数で実施される。児童自立支援施設に入所する子どもと保護者がそろい FGMJ に取り組むことから、時間や回数が限定されているという条件があったこと、また同程度の効果が期待できれば短期の方が効率的であるという考え方があるためである。

このような理由から、FGMJ を実施する以前に参加者、実施者との入念な準備に時間をかける必要がある。この準備が十分にできていればいるほど、短時間、少ない回数で FGMJ を実施することが可能になる。

5. テーマ

FGMJ では、過去・現在・未来を家族とともに共有していくための具体的なテーマとして、家族の養育行動について振り返ること、家族に子どもの理解を深めてもらうこと、子どもと家族で発達・行動上の問題の経過を共有すること、子どもの感情や考えを家族と共有することなどが挙げられる。

6. 非行領域における家族合同ミーティングの特徴

ここでは、一般的な家族面会と FGMJ の比較を行いながら説明する。一般的な家族面会と FGMJ の特徴について、目的の設定、目標の設定、計画の作成、当事者の参画、支援者関与度、準備、理論を活用する、実践の形、ホワイトボードの活用、フィードバック、宿題を出す、という点から説明す

る。

6-1. 目標の設定

通常の家族面会の場合は、子どもおよび保護者の強みや課題、関係修復について、目標を設定し、共有し、実施することはあまり行っていない。一方で FGMJ は、長期的な目標の設定、家族や子どもの課題の設定、一回ごとのミーティングの目標設定を行い実施するという特徴がある。そのため、FGMJ の開始時点で支援の終結までの目標設定と支援の過程を保護者および子どもと共有していく。こうした点で、FGMJ は短期間で課題の解決を目指す意図的な家族療法モデルである。

6-2. 計画の作成

自立支援計画の中に家族支援について盛り込むことは多いが、家族面会について計画を作成することは一般的に多くはないだろう。FGMJ では、短期間で焦点を絞り進めていくため、目標の設定、計画、評価の過程を重視している（伊藤, 1998）。

支援者側は、子どもと家族のアセスメントに基づいて、課題の設定と焦点を定める。この時、当事者がどのようなニーズを持っているのか丁寧に引き出し、当事者が主体的に目標設定を行えるように促す。具体的なミーティングの計画は、達成時の大きな目標とそれに到達するための小さな目標設定（一回ごとのミーティングの目標）から成り立っている。また目標の設定は、子ども自身が取り組む課題と家族が取り組む課題を踏まえて、FGMJ で具体的に何を扱うか設定する。計画は文書や視覚的な図で示し、参加者全員が共有出来るようにすることが重要である。

6-3. 当事者の参画

支援における当事者の参画は、FGMJ の理念に深く関わる重要な事項である。これまでの支援では、支援者が全てを理解し、子どもや家族のマネジメントを担うという考え方が主流であった。当事者参画の意味は、子どもと家族の問題を自分たち家族で力を結集し、解決していく姿勢を引き出していく視点を示している（伊藤, 2004;2005）。FGMJ は、支援者の指導や助言に単に従うのではなく、当事者が主体的に問題解決する姿勢を引き出していくための機会を提供する。

6-4. 支援者の関与度

一般的な家族面会における支援者の役割は、子どもの様子を伝えたり家族のニーズを汲み取ったりするなど、主体的な関与をすることが多い。確かに、FGMJ の準備の段階では、参加者に対する双方の洞察や入念なやり取りを確認していく関わりがあるため、支援者の関与の割合は高くなる。一方、実施段階では、支援者の関与は少なく、相互の対話を促すファシリテーターとしての役割を担う。

つまり、FGMJ の場合は、準備段階と実施段階では支援者の関与の程度が徐々に弱くなるという特徴がある。

6-5. 準備

FGMJ の場合には、目標の設定、計画の作成を踏まえて、数回の合同ミーティングで課題の整理を実施するため、入念な準備を必要とする。特に子どもにとっては、FGMJ がどのようなイメージで、どのように進められるのかイメージしにくいいため、子どもと共に事前の練習を行うことが多い。

まずは、子ども自身に入所の理由や背景、家族関係などを整理する過程を通して、FGMJ の必要性について話をしていくことになる。同様に、家族に対しても FGMJ の必要性、具体的なテーマについて共有する。また支援者間でも、FGMJ の必要性や共有するテーマについてコンセンサスが得られれば、実施に向けて準備が進められる。

具体的には、目標の設定、扱うテーマを絞り込むことを踏まえて、当日の一連の具体的な進めを共有する。「今回のミーティングでどんなことが話し合えればいい？」など、子ども自身に必ず行う質問についても回答できるように練習しておく。また、家族の特徴を踏まえて、「〇〇のテーマには必ず××で、養育者から返ってくると思うから、どうやって答えようか」など、想定されるやりとりを事前に再現しておく。その際、「～て言う意味で聴いてくると思うよ」など、親側の認識をリフレーミングしておくことも重要である。これによって、子どもがショックをうけることなく、肯定的な意味づけを共有することができる。

このように、家族の関係性が困難であるほど、事前の準備を丁寧に実施しておくことが必要になる。

6-6. 多職種と協働して取り組む

FGMJ では各段階において多職種が関わる特徴がある。特に準備段階では、当事者のモチベーションを引き出し、協働していく地盤づくりを行う。その際、寮担当職員は、「〇〇のような時、Aくんはこんな風に考えていることが多いんです（職員）」→「うちでもそうでした！（保護者）」と生活で子ども達がつまずくポイントを、保護者の方と具体的なエピソードを通して共有出来る強みがある。こういったアプローチは、時に子どもの育てにくさを一人で抱え込んでいた保護者にとって、理解してもらえた感覚や信頼感を高め、子育てへのモチベーションを引き出すことにつながる。一方心理職は、子どもの行動化の背景や心理面について整理することや、実施段階においてそれらを代弁する役割を担うこともある。

このように、多職種が協働して関わることで多層的に子どもと保護者を支えていく体制を構築することができ、それによって実際のミーティングにおける介入もより効果的に機能する。

6-7. 理論を活用する

FGMJ では、いくつかの理論や技法、ツールを活用して進めていく。重要な理念は当事者の参画と意思決定プロセスへの関与、ストレングス視点である。理論や実践の方法・技法としては、システムズ・アプローチ、課題中心アプローチ、サインズ・オブ・セーフティ・アプローチ、ソリューション・フォーカスト・アプローチ、修復的司法（被害者－加害者の対話、ファミリー・グループ・カンファレンス）などを参考に用いている。また具体的な支援のツールを作成しており、それぞれのニーズに合わせて取り組むことができる設定にした。

こうした理論やツールを用いる理由は、誰もが一定の支援を提供できるような体制を作るためであ

る。これまでの児童自立支援施設における家族支援は、マニュアルにならず、個々の個性・独自性・寮の考え方を活かした実践が取り組まれてきたが、支援の一定の質を担保するという点では課題があった。一定の理論やツールを活用した実践は、他の施設や支援者の助けにもなるだろう。

6-8. 実践の形

FGMJ では、ホワイトボードを囲むように半円形で参加者全員が座り、やりとりを実施する形式が多い。ホワイトボードが面接記録の役割を果たし、記録者と司会者がそれぞれ位置づけられる。参加者はホワイトボードを囲むように用意された椅子に座る。参加者はホワイトボードを見つめるため、対面形式に比べて、緊張感が低く、難しい話題でも司会者や記録者に話をする形式となるため、家族とシビアなテーマを共有しなければならない場合にも話しやすい（鈴木,2011）。また、司会者と記録者が明確に位置づけられているため、ファシリテーターとしての役割を遂行しやすいという実践者側のメリットもある。

6-9. ホワイトボードの活用

FGMJ ではホワイトボードを活用する。通常の面接では、対象者に記録を見せずに手元の用紙に記載していくことが多いが、当事者の参画と当事者による問題解決を促していくことがこの手法の特徴であるため、参加者の意見は視覚化しながら全員が共有できるように整理を進めることが効果的である。記録者が重要なポイントだと思うことと、参加者が重要だと感じていることが異なっている場合もあるため、ホワイトボードを見ながら「ここは重要なので赤で示してください」などと、意見がでる場合もある。このように、参加者全員から出た意見を視覚化しながら整理していけるメリットがある。

またホワイトボードを介してやりとりする点で、参加者間の緊張緩和の役割を果たすことも多い。対面方式による面接では、目のやり場に困ったり、対立しがちなテーマでは話が硬直したりしがちである。一方でホワイトボードを活用する FGMJ では、テーブルもなく半円形で実施されることから、直接視線を合わせる必要もなく、リラックスした状態で対話もスムーズにやりとりできることが多い。

6-10. フィードバック

FGMJ では一回ごとのフィードバックを重視する。大きな目標の設定とそれを達成するための小さな目標を一回ごとのミーティングで設定するため、必ず達成度や話し合った結果を振り返る。

FGMJ の開始時には、全体の目的、大きな目標、今回の目標を確認し、今回の FGMJ の終了後、「どのような気持ちになれているとよいか？」という質問を行っているため、終了時には「実際にどうだったか？」という振り返りを行う。これは FGMJ に参加した子ども、家族のみではなく、参加した支援者すべてから意見をもらう。

FGMJ 終了後には、参加者の意見を記載したホワイトボードを写真に取り、それぞれ持ち帰ってもらうことで、フィードバックを実施している。また話し合った内容をさらに視覚的に図で整理することで、次回のカンファレンスのための整理とフィードバックをするツールに活用している。

6-11. 宿題を出す

FGMJ の全体計画で設定したテーマや目標を達成するために、参加者に主体的に課題解決に取り組んでもらう必要があるため、宿題に取り組んでもらうこともある。多くの場合、FGMJ の最後には、次回の目標について設定している。そのため、次回のテーマについてワークシートに整理をしてくることを宿題とすることが多い。子どもは寮での生活を行っていることから、FGMJ に参加する寮支援者、心理職と一緒に宿題に取り組むこともある。これによって、次回の FGMJ の練習を行うこともできる。

7. 非行領域における家族合同ミーティングの実施手順

ここでは、仮想事例を基にして FGMJ の開始から終結までの流れについて、ポイントを概観する。

【導入】

FGMJ の開始に当たり、司会者が以下のように進めていく。

〈本日はお忙しい中、FGMJ にお越しいただき、ありがとうございます。このミーティングでは、これまで A とご家族で話せなかったことやすれ違っていたことなどを共有し、現在の成長や今後起こりうることを準備するためのものです。各回の目標やテーマについて整理ができればと思います。また、FGMJ を開催する前に、A やご家族から出してもらったそれぞれの思いや共有したいテーマを整理してきました。回数が限られているため、一回一回を大切な時間にしていければと思います。紹介が遅れましたが、本日の司会を担当する〇〇です。よろしくお願いします。それでは、順番に自己紹介をしていただきたいと思います。まず、A から・・・〉

このように、FGMJ の全体目標や位置づけを確認しながら、各参加者に自己紹介を促し、話題を展開していく。

【目標の設定】

〈さて、ではまず、この FGMJ でどのようなことが達成できるといいでしょうか。全員から話を聴きたいと思います。まず、A はどうだろう？>などと、全員に FGMJ を通して達成したいことを確認する。このとき、記録者はホワイトボードに各参加者の意見のポイントを記載していく。

〈はい、ありがとうございます。おおよそ、〇〇の状態になれているとよいということですね。では、次に、〇〇の状態になるために、まず今回どのようなテーマを共有できたらよいでしょうか？>と、本日のテーマを明確化していく。〈A はどうだろう？>などと、必ず子どもや力動的な関係も踏まえて話をふる順番を意図的に変えていくことも必要になる。〈では、本日のテーマは、△△と言うことでよろしいでしょうか。>などと、確認したうえで、〈では、これから一時間くらいミーティングを始めます。一時間後にそれぞれ、どんな気持ちや考えになれていると参加してよかったな—と思えるでしょうか。まず、A ？>などと、目標設定に対して達成したときの状態をイメージしてもらい、そのことについて語ってもらう。記録者は、それぞれの発言をホワイトボードに書き込み、ミーティング中はいつでも

目にとまるようにしておく。それによって、参加者メンバーの話題が自然と目標の達成に向かうようにする狙いがある。

ここまでで目標設定と一時間後の状態を全体で共有することができた。この過程を丁寧に進めることで FGMJ の進行を有意義なものにすることができる。

【FGMJ の開始】

<それでは、今日の目標の設定と一時間後の状態も共有することができました。これから、具体的な対話を進めていきましょう。まず A、〇〇のころについて教えてくれる？>、<それでは、お母さんはどうでしょうか？>など、家族の思いを引き出し、共有していく時間が始まる。

【FGMJ の終わり】

<そろそろ終了の時間が迫ってきました。今日は〇〇について、A と家族の双方の思いを共有するという目標で話してきました。そしてはじめに一時間後の状態をうかがいました。どうでしょうか、今話し合った後のご感想をそれぞれ、お話しいただけますか？>などと伝えて、一時間前の目標設定についてどの程度達成できたか振り返る。この場面でも全員から意見を伺い、ホワイトボードに記載していく。

この過程が終わると、<では、本日はこれで閉じたいと思います。次回のテーマは△△になりそうですね。A には□□、ご家族には☆☆について考えてきてもらいたいと思います。ワークシートを用意していますので、こちらに考えたこと、感じたことなどを書いてきてください。>などと、次回までの宿題を出して終了する。

【FGMJ が終了した後にあること】

FGMJ が終了したら、板書のコピー（写真）を人数分印刷して持ち帰ってもらい、本日のまとめとする。一般的な面会では口頭で振り返るか、支援者だけが見るためのメモを取ることが多く、それを当事者に見せることは少ない。この手法では、家族が主体的に問題解決に取り組むことをエンパワーするため、最後に、参加者のねぎらいと主体的に参加してくれていることを賞賛する。

【次回の FGMJ の準備】

各回で話し合えたことをよりわかりやすく視覚的に示す資料を作成する。これは次回の FGMJ の開始時に参加者全員に、前回のまとめとしてフィードバックするために活用する。板書のみではなく、さらに再整理することで、支援者側の振り返りを可能にし、次回の展開過程をイメージしやすくなる。また参加者にも改めて整理を促すことができる。

4-2. 家族合同ミーティングの適用場面

本研究では家族合同ミーティングの実際について紹介するための映像教材を作成した。以下では映像化した際に使用した仮想事例の対話場面を示す。これによって、FGMJについて具体的に説明を行う。

<モデル事例の概要>

- ・少年A：13歳 男子
- ・主訴：万引き、家出、不良交友
- ・背景：Aは3人兄弟の末っ子として生まれる。父親（30代）は職人で気性が荒く厳しい、暴力によってしつけを行ってきた。母親（30代）は精神的に不安定な面があり、また兄の養育に手がかかりAに対しては放任的で食事の準備も十分にできていなかった。AはADHDや素行障害の診断があり、これまで落ち着くことができずに、トラブルを繰り返し、学校から何度も呼び出しを受けて、そのたびに父親から暴力を受けることで対応されてきた。

小学校2年生になると授業に集中できずに立ち歩き、他児とのけんかも絶えず、学校でのトラブルがあると家でも怒られていたことから、4年生になると学校もさぼりがちになった。家に帰るのも遅くなり、コンビニで万引きをしてお腹を満たしてきた。家に居場所もなく小5年生になると、中学の先輩と仲良くなり深夜まで遊び歩き、家にも帰らなくなっていた。中学1年時に施設へ入所した。

- ・対話の目的：

① 過去を共有する：Aの被害者性と家族の関係を振り返る。

Aは母親に受け入れてほしい気持ちを持っていたがそれを母親は精神的に不安定で十分に対応できず、父親はそれらの背景を理解せずに問題行動を暴力等で押さえてきた。こうした家族の対応と非行の過程を共有することが目的である。

② 現在と過去を共有する：Aの加害行動によって周囲に与えた影響を理解し、現在の成長を評価する。
施設入所後、安定した生活を維持していることや肯定的な目標を持ち生活している点を保護者と共有し、過去の非行が周囲に与えてきた影響についてもA自身が理解を深めることが目的である。

③ 今後の生活に向けた準備：家庭に戻って起こりうる出来事と対策を共有する。

過去と現在のAと家族の思いを共有する過程から、未来の関係を想定して、準備をすることが対話の目的となる。

<準備段階>

Th＝セラピスト、FS＝家族支援員

Aへの個別面接

事前に個別面接を通して、上記の①～③について整理を行う。Aに対しては、家族合同ミーティングの説明や動機付けを生活場面や個別の心理面接を通して実施する。Aはこれまで落ち着くことができなかったこと、母親が兄ばかりに関心が向いていること、父親は無関心で何か悪いことをすれば殴られてきたこ

とから関わりたくないと感じていたことなどをAの思いを整理していく。

また非行の背景には、もともと落ち着けなかったこと、食事がなく万引きを始めたが次第に万引きが当たり前になっていき、夜間も帰らずにいたことから先輩とつながりを持つようになり、だんだん居心地がよくなっていったこと等を整理する。

現在、施設生活を通して目標を見つけ前向きに生活していることから、今後帰宅後は新たな目標をつくり生活していきたいなど、肯定的な目標を引き出し、家族との対話を実施する準備を行う。

また FGMJ の進め方や具体的な手順について共有しておく。本仮想事例では、初回では①過去の家族への思いを伝えること、②2 回目では過去の自分の行動を振り返ること、③3 回目では今後の生活に向けた話し合いをすることなどを押さえておく、という設定とした。

家族への面接

家族に対しては、施設入所となるまでの A の行動化の背景について考えてもらうが必要になる。母親は A が順調に成長してほしいと思ってきたが、問題行動ばかり起こしどうすればよいか悩んできたこと、また十分に A の気持ちを受け止めてこなかったことを振り返り、それらを A と共有したいという動機付けを持っている。父親は悪いことをしたら怒られて当然との認識を崩さず、自らも殴られて育ったことの認識を持っている設定とした。ただ父親は、暴力の影響について心理教育を行うと一定の理解は示し、A の気持ちを聞くことを約束してくれた。

A と同様に、FGMJ の初回では①幼少期から現在に至る家族の対応について振り返ること、2 回目では②A の問題行動についての家族の思いを共有すること、③3 回目では今後の生活に向けた話し合いをすることを整理した。

FGMJ の説明

FGMJ の対話方法について双方に説明を行い、面接は 1 時間程度面接を実施する場面（映像 1）。はじめに①FGMJ の全体を通して共有したいことを確認、②次にこの時間の中で話題としたいテーマを共有する、③この 1 時間が終わったあとにどのような気持ちになれているとよいかを共有する、④対話を開始する、⑤1 時間程度が経過したところで③を振り返る、⑥次回のテーマや宿題を共有する、⑦ホワイトボードに共有した事項を印刷して終了する。

<導入>

発言	対話	備考
FS	「本日は A 君、またご家族から入所の経緯やこれまでの出来事を共有したい」というお気持ちを伺いこのような場を設定させてもらいました。今回から数回こうした場を設けて、家族の話し合いの時間を設定していきたいと思います。まず、簡単に自己紹介をお願いします。まず学園で家族支援担当しています〇〇です。今日は皆さんに質問をしたりする役割、司会を務めます。よろしくお願いします。では、	

	A くん。」	
A	「〇〇です、今日はありがとうございます。よろしくお願いいたします。」	
父	「A の父親です。日頃から大変お世話になっています。たくさん迷惑をかけているのではないかと思います……。よろしくお願いします。」	
母	「母です、お世話になっています。よろしくお願いします。」	
寮長	「A 君の学園での生活全般の担当しています〇〇です、よろしくお願いします。」	
Th	「私は A 君の心理担当をしています。今回は A 君と家族の対話をするにあたって、双方からお話を伺ってきました。よろしくお願いします。今日はみなさんの発言をホワイトボードに記載して整理をしていく役割も担当します。」	

<展開>

FS	「今日はまず、こうした話し合いの場を設定することでどのようなことが達成されるとよいと思っているのか、確認して、本日の話しを始めたいと思います。では、まず A くんから、大丈夫かな。」	
A	「はい、これまでのことを振り返って、ちゃんと家族と話し合えるような関係になりたいです。」	ホワイトボードに記入
FS	「そうだね、しっかり成長しているところも、またこれまでのことも共有して、家族と話し合えるような関係になれるといい、てことなんだね。」	
A	「はい」	
FS	「では、お父さんは？」	
父	「ここを出ても、同じことにならないようにどうしたらいいか、A とも確認できれば…」	ホワイトボードに記入
FS	「はい、そうですね。お母さんは？」	
母	「はい、家族が仲良くできるようになれば。これまでいつも悪いことをするの、A のことを怒ってばかりでした。だから家族がよい関係になれるように……」	記入
Th	「そうですね。A 君との関係がよくなり、自然に話ができるようになれるといいですね。」	
FS	寮長先生はどうでしょうか」	
寮長	「いや、A の求めるような家族、またお父さん、お母さんが求めるような家族に近づけるといいと思います」	記入
Th	「私も同様です。これまで双方の話を聞いてきましたので、お互いの思いを共有して、これからを歩んでいけるようになると思います。」	記入
FS	「では、この面接を通して、これまでの出来事や思いを共有し合えるような家族になる、ということが大きな目標でしょうか」	

A	「はい」	
父母	「はい、そうなれたらいいと思います」	
FS	「では、今回初回ですが、A 君、ご両親から事前にお話を伺って、今回のテーマとして共有したいことが挙がられていました。なんでしたか、A 君？」	
A	「入所前までの出来事や気持ちについて」	
FS	「そうでした！」	
Th	「お父さん、お母さんも入所前の出来事でよろしかったでしょか」	
父	「はい。」	
母	「小さいときから順番に A の気持ちや家族の気持ち、出来事を共有できればと思います。」	
Th	「そうですね。これまでご家族で話し合うことができなかったと、事前にお話もありましたね。A 君もいろいろな気持ちを抱えて生活をしてきたけれども、言葉にできないこともたくさんあったと思います。そうしたお互いの思いをここで共有していくことができるといいですね。」	
FS	「では、今回のテーマは、『幼い時の出来事について』としましょう。」「では、これから対話を始めていきますが、1 時間後にどのような気持ちになれているとよいか、確認してスタートしましょう。A 君」	
A	「自分の気持ちを分かってもらえればいいと思います。」	記入
FS	「では、お母さん？」	
母	「A の気持ちもそうだし、家族の気持ちも理解してもらえたら」	記入
Th	「お父さんは？」	
父	「なんで問題ばかり起こしてきたのか知りたい」	記入
FS	「寮長先生は？」	
寮長	「話し合えてよかったな、とみんなが少しでも思えればいいと思います」	
Th	「少しでも A ちゃんと家族が分かり合えたらいいと思います」	
FS	「はい、ありがとうございます。ホワイトボードにも今日のテーマと 1 時間後の気持ちを整理して記載してもらいました。さて、では 1 時間後の気持ちになれるように対話を始めていきましょう。」	
父	「はじめに、いいですかね。A がなんで問題行動ばかり起こしていたのか」	
母	「いや、それはお父さん、私たちが厳しくしつけてきたから…」	
父	「問題起こせば、それはしかるのは当然だろ」	
母	「しかり方がよくなかったんじゃないの！A の気持ちを分かってくれなかったからじゃない」	
父	「いや、まあ・・・」	
Th	「最初に A 君が問題を起こしたのかいつ頃でしたか」	

母	「小学 1 年生のころ、ほかの子の消しゴムや鉛筆を持ってきてしまって、先生から電話があったんです。」	
Th	「A くん覚えている？」	
A	「あ、なんとなく・・・」	
母	「その後、買ってあげていないのに、新品の文具やお菓子の袋が出てきたりして」	
FS	「A 君？」	
A	(苦笑い)「いや、覚えてます」	
Th	「こういう出来事があったとき、ご両親はどのように対応されてきたんですか」	
父	「それりゃ、起こりました。怒鳴って、何も言わないからひっぱたいてきました」	
母	「『わたしも、どうしたの！何回言ったらわかるの』て、問い詰めましたね」	
Th	「A 君はこの時のことどう思っているの？」	
A	「小学校 1-2 年のころはよくわかっていなくて、でもほしいものがあると自分でも我慢できなかったし、怒られるのもわかっていたから嘘ついたりして。」	
母	「このころ、私は鬱でこの子のことをちゃんと見てあげられなかったんです。それに兄もいて、兄の方が手がかかったから。だから、寂しい思いをさせてしまったという気持ちがあるんです。」	
Th	「そうなんですね。A 君の気持ちを分かってあげられなかったというお母さんの思いがあるんですね。」	
母	「はい、かわいそうな思いをさせてしまったと思っています」	
FS	「当時のお母さんの気持ちは A 君に伝わっていたのかな？」	
A	「いや・・・小学校 4 年生くらいになると、寂しいていうか。。。」	
寮長	「しっかり言っているんだぞ」	
A	「わかってもらえないな、ていう気持ちもあったし。友達といるとだんだんそっちの方が楽しくなって。殴られるのが嫌で嘘をつくようにもなった・・・」	
母	「そうだったんだね・・・」	
父	「そうか。俺も小さいときは何か悪いことすれば殴られるのが当たり前だったから、そう思ってきたし、そう教えてきた。ただ、先生たちとも話してきて A にはかわいそうなことをしてきたと思っている」	
Th	「ああ、A の行動に対してお父さんは改善させるために暴力で教えてきたけれど、結局よい結果にならないし、A にも嫌な思いをさせてしまったと感じて・・・」	
父	「そうですね」	
FS	「A 君は？」	
A	「自分が悪いことをしてきたのはそうだし・・・」	

<まとめ>

FS	「さて、そろそろ1時間が経過しました。今日は、幼少期の頃の出来事の中でも人の物を捕ったり、万引きの背景について共有しました。また母さんはAにかかわってあげられなかったことを、またお父さんは暴力で対応してきたことを振り返りました。1時間前に立てた目標がどの程度達成されたのか確認しましょう。Aくんは『自分の気持ちを分かってもらえれば』で、話してくれたけど？」	
A	「はい、暴力が嫌だったこととか、お母さんの気持ちとかわかってよかったです」	ホワイトボード
母親	「この時期の家族の気持ちは伝えられたと思います。Aの気持ちも。また次回じっくり聞きたいと思います。」	
父	「はじめの頃の問題と入所前の問題はまた意味も違うだろうから、そこは次回。暴力については悪かったと。まず、話せてよかったと思います。」	
寮長	「まず初回、Aとお父さん、お母さんの気持ちを少し知る時間になったと思う。次回さらに共有できるといいですね。」	
Th	「いや、本当にそうですね。これまで話せていなかったお互いの思いを今日みたいに話せるといいと思います。」	
FS	「はい、ありがとうございます。1時間過ぎてしまいましたね。次回は、入所前の出来事がテーマとなります。今日の記録は、このあと印刷してお渡ししますので、次回持ってきてください。前回の内容を確認したいと思います。それでは、本日は終了とします。ありがとうございました。」	

ホワイトボード		
	<開始前>1時間後の気持ち	開始後
A	「自分の気持ちを分かってもらえれば」	「暴力が嫌だったこととか、お母さんの気持ちとかわかってよかった」
母	「Aの気持ちを理解、家族の気持ちも理解してもらう」	「家族の気持ちは伝えられ。Aの気持ちも。また次回聞きたい」
父	「なんで問題ばかり起こしてきたのか知りたい」	「暴力＝悪かった。話せてよかった。」
寮長	「話し合えてよかったな、思えればいい」	「気持ちを少し知る時間になったと思う。次回さらに共有できると。」
FS	「少しでもAくんと家族が分かり合えたな、と思えればと」	「今日みたいに話せるといい」

5. 終わりに

本研究では非行領域における家族合同ミーティングに関する具体的進め方を中心にまとめた。こうした手法を実際に活用することで、少年や家族の心理面の整理と少年と家族の現実的な関係についての修復が

なされる機会となることを実感してきた。しかし上記の様な具体的な説明だけでは十分に伝えることができないこともあり、職場で共に家族合同ミーティングに取り組む同僚の協力を得て、映像の作成に取り組んだ。これまで児童自立支援施設の一日の流れを重要な場面に沿って紹介する映像、児童自立支援施設における生活場面面接に関する映像の作成などにも取り組み、視覚的な情報によるインパクトの大きさを感じ、今回も映像を通してこれまで家族合同ミーティングに取り組んでいなかった施設や実践者に還元することができればと考えた。当初予定していた調査の一部を変更することになったものの本助成のおかげで一定の成果を達成することができた。

6. 文献

伊藤富士江（1998）課題中心アプローチの理論と実際, 刑政, 109, 52-61.

伊藤富士江（2004）少年司法における家族グループ会議・ソーシャルワーク実践からの検討・社会福祉学, 45, (1), 67-67.

伊藤富士江（2005）犯罪被害者と加害者の対話: ソーシャルワーク実践からの検討. 社会福祉学, 45(3), 23-32.

牧山夕子(2012).現場からのレポート少年院在院中の少年の家族調整を図った事例(特集家族関係).更生保護,63(12),40-43.

村松励(2000).非行臨床における家族療法.刑政,111(8),38-46.

生島 浩（1985）非行臨床における“家族療法の試み”，更生保護と犯罪予防,76,41-58.

矢野茂生(2014).児童自立支援施設におけるソーシャルワークの可能性:家族全体支援と環境調整の重要性を考察する.非行問題,(220),196-203.

児童自立支援施設運営ハンドブック編集委員会(2014).児童自立支援施設運営ハンドブック平成26年3月.厚生労働省雇用均等・児童家庭局家庭福祉課.

全国児童自立支援施設協議会(1999).児童自立支援施設(旧教護院)運営ハンドブック:非行克服と児童自立の理念・実践(新訂版)全国児童自立支援施設協議会;三学出版.

○家族合同ミーティングに関するマニュアル作成は以下の文献を改編して作成した。

- ・大原天青・笠松将成・笠松聡子（2019）「非行領域における家族合同ミーティング (Family Group Meeting in Juvenile delinquency : FGMJ) の理論と実際～家族再統合支援の一形態～」非行問題 (225), 155-171.

○映像の一般公開は行っていないため必要に応じて限定的に紹介させていただきます。